

No. 102

2024.10.15

# すくらむ

発行所 福井県特別支援教育センター  
所在地 〒910-0846  
福井市四ツ井2丁目8-1  
TEL (0776)53-6574  
FAX (0776)52-6272  
E-mail tokuse@pref.fukui.lg.jp  
URL <https://www.fukuisec.ed.jp>

- P.1 ・巻頭言 「やさしい社会の実現に向けて」
- P.2 ・令和6年度の研修講座について
- P.3 ・特別支援教育に関する各校の取組紹介
- P.4 ・人材育成にかかわる市町の取組紹介  
・「読み」に困難さのある児童生徒に向けた音声教材  
・実践研究発表会案内



福井県特別支援教育センターは、  
県立病院関連四施設の4階にあります。

## 巻頭言 「やさしい社会の実現に向けて」

福井県教育庁高校教育課 特別支援教育室長 旭 亀代治 氏



私が地域の学童野球チームの指導に携わっていた頃の話です。ある日、練習グラウンドに一人のお母さんがやって来て、「発達障がいがあるとチームには入れないですか？」と尋ねられました。私は「野球をやりたいと思っている小学生なら誰でも入れますよ」と答えました。「本人は野球が大好きなんです」とそのお母さんは安心した表情を浮かべて帰って行きました。私はそう答えたものの、その子がチームに馴染めるかどうか、周りの子どもたちがどんなふうを受け止めるのかわからない、正直不安もよぎっていました。

翌週、5年生のしょう君(仮名)が少し不安そうな表情でお母さんと一緒にやってきました。同じ学校に通っているチームのメンバーは、しょう君のことをよく知っていて、彼の困り感に自然に寄り添う姿が見られました。そして、私の心配をよそに彼がチームに溶け込むのに時間はかかりませんでした。しょう君は、ルールやサインプレーを覚えることに苦労していました。うまくいかないことが多く落ち込む姿もよく見られましたが、試合に出て出塁できた時には、ベンチ全体が大いに盛り上がりました。そしていつしかチーム内には「しょう君がベンチにいれば試合に負けない」というジンクスが生まれました。

県では、インクルーシブ教育システムの更なる推進を次期教育振興基本計画に位置付け、障がいの有無に関わらず、子どもたちがお互いを理解し合いともに学ぶ環境づくりを目指しています。障がいのある子にとっては、活動範囲や人間関係を広げ自らチャレンジする意欲向上や社会参加の促進、また、障がいのない子にとっては、障がいの理解や相手に対して自分は何ができるのか等について主体的に考える機会にしていきたいと思えます。そうした学びの場は、相手の立場を尊重する気持ちや思いやりの心を育み、「やさしい社会」の実現に繋がっていくものと考えています。学び合いの成果が、子どもたちの日常に広がっていくことを願っています。

# 令和6年度の研修講座について

今年度も、7、8月に8講座を開催することができました。園・学校関係者、福祉機関、医療機関の方など、大変多くの方に受講していただきました。開催に当たり、多くのご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。今年度の研修講座の目的や研修の様子についてお伝えします。

## 研修講座No.2 愛着障害と発達障害の理解と支援

和歌山大学教育学部 教授 米澤 好史 氏からオンラインにてご講義をいただきました。

はじめに、愛着形成のための3つの基地機能として、ポジティブな感情を生じさせる「安心基地」、ネガティブな感情から守る「安全基地」、特定の人から離れて行動し、また特定の人に帰っていく「探索基地」についての説明があり、それらの3つの基地を土台にして精神的な自立が可能になることを学びました。次に、愛着障害は、愛情欲求行動、自己防衛行動、自己評価の低さという特徴があり、それぞれ「安心基地」「安全基地」「探索基地」に課題があるということを教えていただきました。また、愛着障害と発達障害の違いについて、ADHD（注意欠如多動性障害）は行動の障害、ASD（自閉症スペクトラム障害）は認知の障害、AD（愛着障害）は感情の障害であるということを確認しました。愛着障害は、関係性の障害であり感情発達の障害であることを踏まえて、特定の人との関係性をつくり、それを広げていく支援が必要であることを学びました。

愛着障害の入り口部分を学び、もっと知りたい、更に学んでみたいという意欲をもつことができたのではないかと思います。

### 【受講者アンケートより】

- 愛着障害と言っても、安心基地、安全基地、探索基地のどこが原因としてあるのか分けてみることを知り、これまでよりも子どもの関係性が見やすくなったと感じました。
- 愛着障害について、思春期以降の生徒の対応について更に学びたいと思いました。



## 研修講座No.4 発達障がいのある子どもへの理解と支援

—脱!強度行動障がい、環境設定の勘どころ—

東京家政大学 特任教授 新井 豊吉 氏から、直接的他害（噛みつき、頭突き等）や間接的 he 害（睡眠の乱れ、同一性の保持等）、自傷行為等が通常考えられない頻度と形式で出現し、その養育環境では著しく処遇の困難な強度行動障がいのある子どもたちについての理解や支援について、オンラインにてご講義をいただきました。

はじめに、「問題行動」という言葉は本人が問題であるというイメージをもたせるが、近年は「問題提起行動」「課題行動」とも呼ばれており、強度行動障がいのある人は、より強く自分のつらさを訴えている人と言えること、強度行動障がいには知的障がいやASDと関連があり、ASDの特性を理解し、特性に応じた支援が強度行動障がいの予防となることを教えていただきました。また、ASDの特性について、ローナ・ウィングの三つ組み（社会性の特性、コミュニケーションの特性、こだわり、想像力の特性）と、感覚刺激の偏りについてご説明くださり、学校生活の中での具体的な支援方法や環境の整え方を、新井先生ご自身の実践動画を見せていただきながら、具体的に分かりやすく教えていただきました。発達障がいのある子どもの困難さの背景や支援方法のあり方について、たくさんのお話を教えていただき、子どもの理解を深めるよい機会になったのではないかと思います。

### 【受講者アンケートより】

- 苦手な克服だけにフォーカスせず、できることを広げていった先に自己肯定感が育ち、苦手にトライできるパワーになる、という点は障がいの軽い重いにかかわらず今日学べてよかったです。
- 「学校文化でなく、彼らの文化を尊重しましょう」「支援はオーダーメイド」という言葉が印象的でした。本人に合わせた支援をしてきたつもりだったが、軸はいつも私の中の社会性だったり規範意識だったと思いました。一人一人の想いを大切にかかわっていきたいです。
- 子どもたちにやらせたいことではなく、子どもたちの実態を確認し、アセスメントをしっかりとすることがスタートであるとお話が心に響きました。

# 特別支援教育に関する各校の取組紹介

## 三国高等学校の取組

三国高等学校では、特別な支援や配慮を必要とする生徒が年々増加するのに伴い、生徒理解の一つとして、当センターの研修講座を活用し、夏季休業中に特別支援に関する校内研修会を3回実施しました。研修会の内容は、特別支援教育コーディネーターの先生方が企画立案し、管理職とも相談しながら、以下のような研修を実施しました。

研修会①	研修会②	研修会③
<b>研修講座No.1 視聴</b> 「読み書きに困難がある子どもの理解と支援 ー合理的配慮を考えるー」	<b>研修講座No.3 視聴</b> 「自閉スペクトラム障害の理解と支援」	<b>研修講座No.5 視聴</b> 「ワーキングメモリに弱さのある子どもに配慮した授業・学習の工夫」
	<b>通級指導担当者より事例紹介</b> 「本校生徒の特性理解と支援方法について」	<b>特支セよりミニ講義</b> 「高等学校における学びのユニバーサルデザイン」
	<b>座談会</b> ～対応に困った事例などを相談してみましょう～	

◎ 研修会に参加された先生方の声を紹介します！

・当事者の声を聞いたのが良かった。  
 自閉スペクトラム障害の方が、どんなことに困り感があるのか、よく理解できた。(No.3受講)



・生徒の立場に立って考える機会になり、生徒の苦しみや困難さを理解できた。(No.5受講)  
 ・学びのユニバーサルデザインについて、日頃の授業に活かせる内容でよかった。  
 ・座談会で、他の先生の対応を共有できたり、SCや通級の先生からアドバイスをいただいたりして、とても良い機会になった。

管理職のリーダーシップの下、特別支援教育コーディネーターの先生方を中心に、支援や配慮を要する生徒を校内みんなで支えていこうとする三国高等学校の先生方の温かい校内支援体制が伝わってくる校内研修会でした。

11月には、読み書き障がい理解と支援についての研修会も予定しています。スクールカウンセラー、通級指導担当者はもとより、当センターも学校を支える一人として、今後も連携、協働していきます。

## 南越特支校区 特別支援教育 中高懇談会

7/31(水)に南越特別支援学校主催で表題の懇談会が開催されました。この懇談会は、南越特別支援学校校区の定時制高校や中学校の管理職、中学校の特学担任や特コ、市町教育委員会の担当者等に参加を呼びかけ、4年間続いています。当センターの丹南地区所員も参加させていただきましたのでレポートします。

### 【懇談会】グループ協議/事例紹介/各校の取組/情報交換

特別支援学級に在籍する中学生のケース(架空)をもとに、生徒のためにできることはどんなことがあるか、進路指導をどのように進めていくとよいか、自分の立場なら何ができるか、などの視点から各グループで意見を出し合いました。参加したグループでは、「特別支援学校高等部の入学手続きは、知的と病弱で違いはあるのか?」、「高等部卒業後に進学の可能性は?」、「定時制高校の生徒は、学校でどのような学びを重ねているか?」、「高校を勧めた方が良いのか、特支校を進めた方が良いのか?」など、素朴かつ切実な質問が出され、それらに答える形で、各校・各所属の現状や取組を伝え合いました。



### 【助言・講義】嶺南西特別支援学校 校長 為国順治先生「特別支援学級に在籍する生徒の進路指導について」

最初に、為国校長先生から、本懇談会は「地域の関係者が集まって情報交換し合えるすばらしい機会」とのお話がありました。その上で、これまでの豊富なご経験から具体的な事例も交えて、進路指導で大切にしたい視点、特に高校と特別支援学校の教育課程の違いや生徒の特性に合わせた進路選択のプロセス、入試や学校生活における合理的配慮などについて丁寧な解説がありました。参加者からも「資料がとても分かりやすく、時間が許せばもっと聞きたい」などの感想が寄せられたとお聞きしました。

各特別支援学校においては、特別支援学校のセンター的機能として、教育相談や現職教育の協力、授業や教材の公開、交流及び共同学習など、地域の実情に合わせながら、特別支援教育の推進が図られているところです。

本懇談会では、地域の関係者が顔を合わせ、地域の子どもたちのためにできることを考える貴重な機会だと感じました。今後もぜひ参加したいと思うと同時に、他の地域においても、地域の実情に合わせていろいろな形でセンター的機能が発揮されることを期待します。

# 人材育成にかかわる市町の取組紹介

越前町教育委員会 指導主事 渡邊慶子 氏

【R6越前町の取組】特別支援教育コーディネーター・教育支援委員研修会(4月)  
特別支援教育(生活)支援員研修会、通級指導者研修会(4月・9月)

## 特コ・教育支援委員研修会(4/16)

学校全体で取り組む合理的配慮や、チーム学校で取り組む特別支援教育の充実を図るため、今年度は特コ、教育支援委員に教頭も加えて開催しました。

研修には福井県特別支援教育センターから講師を招き、学校全体で取り組む基礎的環境整備と合理的配慮について、個別の指導計画の活用を軸とした支援の展開、特コや教育支援委員の役割や就学相談の実際についてなど、幅広い内容について学びました。支援のつながり方について、また様々な立場の役割について一元的に学ぶことで、全体像の把握につなげ、就学指導中心の「点」の教育支援から、継続的な就学相談・指導を含めた「線」としての教育支援へ、そして家庭や関係機関と連携した「面」としての教育支援のあり方についての理解促進を図っています。

## 特別支援教育(生活)支援員研修会(4/3)

町費採用の特別支援教育(生活)支援員を対象とした研修を、毎年春休み中に開催し、町教委作成のサポートブックによる基礎研修と、各学校の実情や対象児童生徒についての引き継ぎを行っています。



## 通級指導者研修会(4/19, 9/5)

町教委所属の特別支援教育専門員が、県の通級指導者研修会の伝達研修と、通級指導に関する基礎研修、また各種教材、アプリ等の紹介を行いました。第2回の研修会では、参加者が各校における実践を報告し合い、現状や課題、良い事例について情報交換を行いました。

## 「読み」に困難さのある児童生徒に向けた音声教材

音声教材とは、発達障害等により、通常の検定教科書では一般的に使用される文字や図形等を認識することが困難な児童生徒に向けた教材です。「教科書バリアフリー法」の改正(令和6年7月19日施行)により、日本語が通じない児童生徒についても音声教材の提供が可能となりました。

### マルチメディアデージー教科書

(公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会)

- ・ハイライトされた文字に同期して音声を再生できることで、視覚と聴覚の両方を使って教科書を読むことができる。
- ・端末のブラウザ機能で使うことができるようになったため、以前より活用の幅が広がった。
- ・小学校、中学校の全教科書の約9割を作成。



### UD-Book (広島大学)

- ・原本に近い表示モード(固定モード)と文字のみの表示モード(行移モード)を同時に表示でき、読み上げハイライトも同期する。
- ・設定できる機能が多く、個に応じてカスタマイズできる。
- ・小学校、中学校、高等学校全ての教科書対応可。
- ・指導者他、教育関係者も申請できる。

### AccessReading (東京大学先端科学技術研究センター)

- ・PCやタブレット端末のアクセシビリティ機能を使用。
- ・小学校高学年、中学校、高等学校の全教科対応(地図、書写除く)。高等学校は、農業、工業、商業、水産などの専門学科の検定教科書も申込可。
- ・アクセシビリティ機能を上手く使いながら学ぶスタイルを身につけていくことができる。
- ・ウェブサイトに「文章にルビを振る」ページを公開中。

その他、小学校低学年でも簡単に操作できる、ペンでタッチすると読める「**音声付教科書**」(茨城大学)や、音声の質が高く複雑な数式も読み上げてくれる「**UNLOCK**」(愛媛大学)、当事者の声を反映した、音声のみの教材「**BEAM**」(NPO法人エッジ)があります。

それぞれの教材の機能・特徴を理解し、児童生徒の発達段階や困難の状況に合った教材を選んでいく必要があります。

## 実践研究発表会案内



### テーマ:共生社会をめざしたインクルーシブ教育の取組

～多様な教育的ニーズのある子どもたちが生き生きと生活するために～

多様な教育的ニーズのある幼児児童生徒が生き生きと生活するために、園・学校全体で、また関係機関等が取り組んでいるインクルーシブ教育の推進に向けた実践研究の発表を通して、広く意見や情報を交換し、指導の一層の充実と教職員の資質向上を図ることを目的に、『実践研究発表会』を開催します。

今年度は、特別支援教育センターに来場参加(50名程度)とオンライン参加によるハイブリッド方式で開催します。ぜひご参加ください。

日 時:令和7年2月5日(水) 10:00~16:00

場 所:特別支援教育センター

配信方法:Zoom配信(ライブ配信)

◎各所属校・機関からご参加いただけます!